



# 日本医学会だより

## JAMS News

日本医学会 2005年 5月 No.33

### □日本医学会あり方委員会

日本医学会あり方委員会は、日本医学会の活動を見直すために新設した。平成16年度は、各分科会の「日本医学会に関するアンケート」に基づいた検討の結果、まず、社会に発信することの重要性が挙げられた。そして、今年度から新規事業として、公開フォーラムを開き、市民の方に医療をより身近なものとして捉えていただき、ともに考えていくことを企画した。

### □第1回日本医学会公開フォーラム

「医学・医療の今一痛に挑む」をテーマに、2005年10月8日(土、13:00~16:00)に日本医師会館大講堂で開催の予定。

組織委員は、垣添忠生国立がんセンター総長、江口研二東海大学教授、五阿弥宏安読売新聞東京本社社会部長の各氏である。

希望者は日本医学会宛、郵便はがきでお申し込みください。

### □第129回日本医学会シンポジウム

「うつ病」をテーマに、2005年6月16日(木)、日本医師会館大講堂において開催。組織委員は、樋口輝彦国立精神・神経センター武蔵病院院長、久保木富房前東京大学教授、上島国利昭和大学教授、稲葉裕順天堂大学教授の各氏。参加希望者は、郵便はがきでお申し込みください。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。

#### I. 基礎・病態

1. うつ病の脳科学的研究の現状/山脇成人 (広島大・神経精神医学)

2. うつ病の病前性格・心因・状況因/坂元薫 (東京女子医大・神経精神科)
3. 抗うつ薬の作用機序を探る/神庭重信 (九州大・精神病態医学)

#### II. 診断

1. 軽症うつ病の診断(プライマリ・ケア医へのメッセージ)/熊野宏昭 (東大・心療内科)
2. うつ状態の鑑別/坪井康次 (東邦大・心療内科)
3. うつ病症状の捉え方/野村総一郎 (防衛医大・精神科学)

#### III. 治療

1. うつ病の薬物療法/中村 純 (産業医大・精神医学)
2. 精神療法/大野 裕 (慶應大・保健管理センター)
3. プライマリ・ケア医と精神科医との連携/尾崎紀夫 (名古屋大・精神医学)
4. 職場復帰支援/島 悟 (東京経済大経営学部・社会精神医学)

### □医学賞・医学研究助成費

平成17年度日本医師会医学賞・医学研究助成費の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項概略は以下のとおり。詳細は本会にお問い合わせください。推薦期間：5月15日～7月5日。

医学賞：1. 日本医師会会員で、医学上重要な業績をあげた研究者を対象とする。2. 基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ計3名に授与

する(副賞は1名500万円)。3. 推薦は、日本医学会分科会長、大学院医学系研究科長または医学部長・医科大学長、大学附属病院長(本院)、関係機関長、都道府県医師会長により各部門1名以内。

医学研究助成費：1. 日本医師会会員が行う医学上将来性に富む研究を対象とする。2. 基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ15件に授与する(1件150万円)。3. 推薦は、日本医学会分科会長、大学院医学系研究科長または医学部長・医科大学長、大学附属病院長(本院)、関係機関長、都道府県医師会長により各部門1名以内。

今年度から推薦先に大学附属病院長(本院)と都道府県医師会長が加わった。

### □第72回日本医学会定例評議員会

定例評議員会を、平成17年2月23日に開催した。議題は、1. 第27回日本医学会総会の準備状況、2. 平成16年度日本医学会年次報告、3. 平成17年度日本医学会事業計画、4. 平成16年度日本医学会新規加盟学会、5. 日本医学会あり方委員会中間まとめ等である。

高久会長からは、次のとおりの挨拶があった。「日本医学会長を、昨年4月から務めている。日本医学会が、今まで行ってきた主なことは、日本医学会総会の開催、一般シンポジウムの開催、医学用語辞典の編集などであり、そのほか必要に応じて日本医学会としての意見を表明してきた。しかし、もう少し日本医学会の存在を医学界自体のなかに、さらには医学界の周りの方に知っていただく必要があるのではないかとの意見があった。

そこで会長就任後、日本医学会あり方委員会を発足させ、日本医学会のあり方についていろいろ討議した。また各分科会にアンケート調査をし、その結果などを参照しながら、日本医学会の今後のあり方を日本医学会役員ならびに評議員会の方々とご相談を申し上げながら、ある程度の方向性を示したいと考えている」

なお、新規加盟学会については、本年度、日本臨床細胞学会が加盟した。

### □第27回日本医学会総会

総会は「生命と医療の原点—いのち・ひと・夢—」をテーマに掲げ、2007年4月6日～8日に、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)、リーガロイヤルホテルで開催する。展示は3月31日～4月8日に、大阪城ホールを予定。

岸本会頭は定例評議員会で「医学・医療は、問題が山積している。一般社会にもよく理解してもらい、若い人たちにも興味を持ってもらい、この分野へ入ってくる契機になるような会にしたい。専門の医学の知識の交換だけではない会を考えている」と述べた。

また、堀準備委員長は「総会の精神は、原点回帰を図り、生命の「いのち」、尊厳としての「ひと」、将来のビジョン「夢」、という言葉に集約した。コンパクトであるが感動体験を与えるような企画を考えている。また近畿地区で同時期に開催の分科会は、現在、日本内科学会をはじめ13学会から申し入れがあるが、今後、増えるものと期待している。ご協力を賜りたい」と述べた。

詳細は、総会のホームページ <http://www.isoukai.jp/> をご覧いただきたい。

### □医学用語

日本医学会医学用語管理委員会(開原成允委員長)の行う主な事業には、「日本医学会医学用語辞典」の改訂、文部科学省「学術用語集医学編」の編纂、厚生労働省「標準傷病名」の改訂作業への協力がある。「学術用語集医学編」を除いては、今後も継続的に行っていく。

まず、「日本医学会医学用語辞典 英和」の改訂を行う。従来の辞書は、「アルファベット配列のため、同義語、下位語がわからない」などの問題があることから、今回の改訂では、見出し語をMeSHの用語コードを付して対応がとれるようにする。

また、厚生労働省「標準傷病名」の今後の作業方針としては、新規追加要望のあったものと、明白な修正要望から優先的に処理を行う。